

2026 年 07 月 28 日（火）【外為 L a b】松田哲

タイトル：【夏休み相場】

随所で、35 度を超える気温を記録したようです。

防災の注意報も発せられています。

エアコンの無いところでは、自身での体温調節も難しい状況で、脱水状態にならないように、水分とミネラルを、意識して補充する必要を感じます。

マーケット（外国為替市場）を見ても、東京市場は、「夏休み相場」で、積極的な動意が見当たりません。

特に、ドル／円相場の値動きは鈍いように映ります。

「夏休み相場」であろうと、外国為替市場はオープンしているのですが、市場参加者が極端に少ない状態なので、通常のマーケットではありません。

市場参加者が極端に少ないと、まったく動かないケースも考えられます。

まったく動かないのなら、それはそれで結構なことなのですが、逆に、市場参加者が極端に少ない時に、突発的なニュースが出ると、突飛な値動きになるケースもあり得ます。

通常ならば、それぞれのチャート・ポイントや、大台替わりのところでは、まとまった金額の売り買いの注文があるのですが、市場参加者が極端に少ないと、そういった注文が無いので、一気に通過してしまうケースが、突飛な値動きの代表例です。

こんなに暑いと、頭の働きも鈍くなりがちで、鋭い感覚、研ぎ澄まされた感性とは、程遠い状況です。

世界中の多くの市場参加者が、夏休みを取っているときに、わざわざ「一人で相撲」をとるのもばかばかしいものです。

みんなが休む時には、一緒に休むことが重要です。

夏休み明けの相場に向けて、体力と気力を養っておくことが重要、と考えています。

+++++

現在のマーケット（外国為替市場、株式市場、金融市場）で、気になる事柄は、何と云っても、米国とイランの情勢。

米国がイランへの攻撃を強めると、原油価格が上昇し、米国がイランへの攻撃を停止すると、原油価格が下落する。

それに伴い、外国為替市場や株式市場が右往左往している。

米国とイランの情勢を先読みすることは、一般の投資家にとっては不可能と言って良い。

米国とイランだけではなく、イスラエルが絡んでくるからだ。

潜在的に、イスラエルは戦闘状態を維持したいのに対し、米国は、米国有利の条件の下に、戦闘の終結を目指しているように見える。

米国、イラン、イスラエルの三者のそれぞれの思惑が一致していない。

米国とイランの戦闘状態が不明のままでは、積極的な売買は難しい。

この情勢も踏まえて、今は夏休みを取る時、と考えます。

+++++

（2026 年 07 月 28 日東京時間 13：00 記述）